保証書

持込修理　無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
2. 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
   （イ）使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造などによる故障及び損傷
   （ロ）お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷
   （ハ）火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛りなどによる故障及び損傷
   （ニ）消耗または摩耗した部品、付属品の交換
   （ホ）本書のご提示がない場合
   （ヘ）本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合
   （但し、販売シールや領収証でも未記入項目の代用となります。）
   （ト）本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
   （チ）一般家庭用以外（例:業務用、または業務用に準ずる使用方法）で使用された場合の故障及び損傷
3. ご贈答、ご転居などで本保証書に記入のお買い上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
5. 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	CDラジオカセットレコーダー			★お買い上げ日：　　年　　月　　日
型　番	RCD-540N-S RCD-540N-A RCD-540N-P	品　番	09-0365 09-0366 09-0367	保証期間：本体1年間（お買い上げの日から）
お客様	★お名前　　様			
	★ご住所　〒　　ー 電話　　（　　）			
修理メモ				
販売店	★住所　店名　電話 ㊞			

（注）★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
※この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

OHM　株式会社 オーム電機
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
http://www.ohm-electric.co.jp

製品に関するお問い合わせは　**お客様相談室** へ

●通話料無料	●携帯・IP・公衆電話からは
0120-963-006	048-992-2735

電話受付　平日 9：00～17：30　土曜 9：00～17：00
日曜・祝日及び年末年始は除きます

修理に関するご相談は　**修理ご相談センター**へ

電話受付　048-992-3970 平日 9：00～17：00
土・日・祝日及び年末年始は除きます

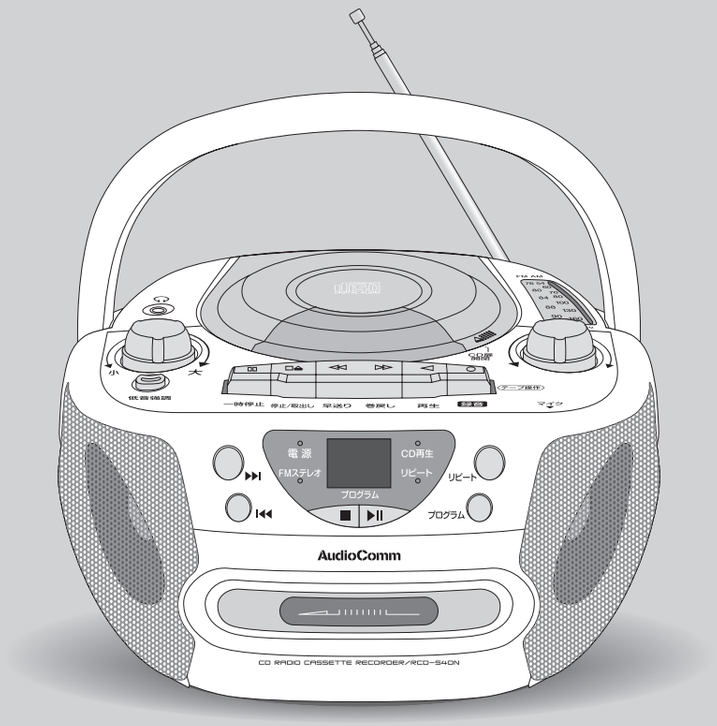
09-0365/0366/0367A

AudioComm®

取扱説明書 保証書付

CDラジオカセットレコーダー

型　番　RCD-540N-S　品　番　09-0365
　　RCD-540N-A　　09-0366
　　RCD-540N-P　　09-0367



このたびは、AudioComm® CDラジオカセットレコーダーを
お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。
“この取扱説明書をよくお読みの上、製品を安全にお使いください。”
なお、お読みになられた後は、ご使用時にいつでも見られますよう大切に保管してください。

目次

免責事項…… 1
安全上のご注意 …… 1〜3
著作権について …… 3
電源について …… 4
ご使用になる前に（CD について） …… 5
ご使用になる前に（カセットテープについて） …… 6
各部の名称…… 7
CD を聴く …… 8〜10
ラジオを聴く …… 11
カセットテープを聴く …… 12
CD からカセットテープに録音する …… 13
ラジオ放送をカセットテープに録音する …… 14
周囲の音をカセットテープに録音する …… 15
ヘッドホンの使い方 …… 15
お手入れのしかた …… 16
故障かなと思ったら …… 17
主な仕様…… 18
保証書とアフターサービスについて …… 18
保証書…… 裏表紙

免責事項

下記の事項につきましては弊社は一切の責任を負いかねます。

- ●弊社の責任によらない製品の損傷や、破損、または改造による故障や不具合
- ●本製品によって生じたデータやプログラムの消失または破損
- ●本製品のために費やした時間及び経費
- ●本製品を運用した結果もたらされた損害
- ●本製品によりもたらされた、直接的、間接的な効果及び利益の損失
- ●本製品をご使用になって生じたあらゆる結果及び、直接的、間接的なシステム、機器及びその他の異常

安全上のご注意

電気製品は間違った使い方をすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階で表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取扱をすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、大けがなどを負う可能性が想定される内容です。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱をすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。 （左図の場合は「感電注意」が描かれています。）
	○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 （左図の場合は「分解禁止」が描かれています。）
	●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。 （左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。）

⚠警告

 コンセントから抜く	**万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常を感知したら、すぐに本機の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く** ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●煙が出なくなるのを確認して販売店に修理を依頼してください。
 コンセントから抜く	**万一、内部に異物や水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜く** ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●販売店にご連絡ください。
 分解禁止	**本機を分解、修理、改造しない** ●火災・感電の原因となります。
 禁止	**表示された電源電圧交流100ボルト以外の電圧で使用しない** ●火災・感電の原因となります。
 禁止	**海外では使用しない。自動車・船舶などの直流DC電源には接続しない** ●火災の原因となります。 ●この機器を使えるのは日本国内のみです。
 禁止	**本製品を家庭用電源で使う場合は必ず付属の電源コードを使う。また、付属の電源コードは絶対に他の製品には使用しない** ●付属の電源コードは本製品専用です。 ●製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。
 接触禁止	**雷が鳴り始めたら、安全のため本機及び電源コードに触れない**
 禁止	**電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない** ●コードが破損して火災・感電の原因となります。
 禁止	**本機や電源コードの上に重いものをのせたり、コードの上に本機をのせない** ●コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
 使用を中止する	**電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、使用を中止する** ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●修理をご依頼ください。
 電池に注意	**乾電池は幼児の手の届かないところへ置く。本機から乾電池を取り外した場合は、小さなお子様が誤って飲み込むことがないようにする** ●万一、お子様が飲み込んだ場合には、ただちに医師に相談してください。
 禁止	**コードを敷物などで覆わない** ●気づかず重いものをのせてしまい、火災・感電の原因となります。
 水かけ禁止	**浴室やシャワー室など、湿度の高いところや水はねのある場所では使用しない** ●火災や感電の危険があります。

⚠注意

 禁止	**調理台や浴室、加湿器のそばなど、湯煙や湿気が当たるような場所に置かない** ●火災・感電の原因となることがあります。
 禁止	**ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かない** ●落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

次ページに続く ❷

⚠ 注意

禁止	**電源コードを熱器具に近づけない** ●コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。	コンセントから抜く	**お手入れの際には安全のため電源プラグをコンセントから抜く** ●感電の原因となることがあります。
禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない** ●キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。	禁止	**CDプレーヤーのピックアップレンズをのぞき込まない** ●レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。
禁止	**ほこりの多い場所に置かない** ●火災・感電の原因となることがあります。	禁止	**電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない** ●コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 ●必ずプラグを持って抜いてください。
濡れ手禁止	**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない** ●感電の原因となることがあります。	アンテナをたたむ	**持ち運ぶときは、アンテナをたたむ** ●伸ばしたまま運ぶとアンテナが引っ掛かったり、当たったりなどして、けがの原因になることがあります。
音量は小さく	**電源を入れる前には、音量を最小にする** ●突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。	コンセントから抜く	**移動させるときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く** ●コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。
音量に注意	**ヘッドホン使用時は音量を上げすぎない** ●耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。	指を挟まれないように注意	**お子様がカセットドアやCD扉内に手を入れないように注意する** ●けがの原因となることがあります。
乾電池の電極性に注意	**乾電池は、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し、表示通り正しく入れる** ●間違えると乾電池の破裂、液もれにより火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	コンセントから抜く	**旅行などで長時間本機を使わないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜き、乾電池も取り外す** ●火災・液もれの原因となることがあります。
禁止	**指定以外の乾電池は使用しない。また、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わない** ●乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	禁止	**電磁波を発生させる機器(携帯電話、テレビ、モニターなど)に近づけない** ●電磁波によりお互いの機器が干渉し、ノイズや混信の原因となります。

著作権について

放送やレコードその他の録音物(ミュージックテープ、カラオケテープ、コンパクトディスクなど)の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。従ってそれらから録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

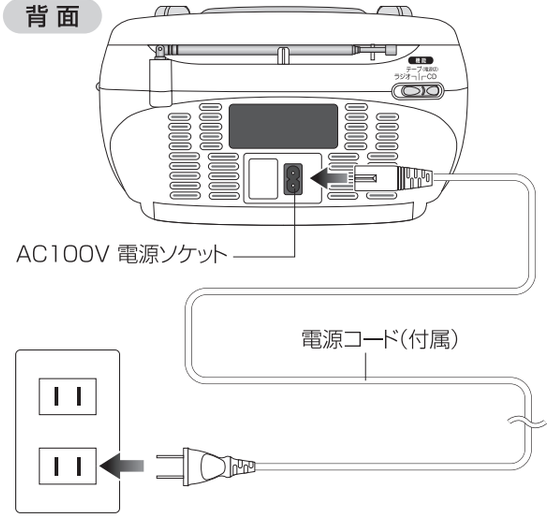
電源について

●電源コードを抜き差ししたり、乾電池を出し入れするときは、電源が切れた状態で行ってください。
●電源を入れる前に音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

家庭用電源で使う場合

付属の電源コードで本機のAC100V電源ソケットと家庭用コンセントを接続します。
◆乾電池が入っている場合でも、電源コードを接続すると自動的にAC電源に切り換わります。
◆本機を使用しないときは電源コードをコンセントから外してください。

背 面

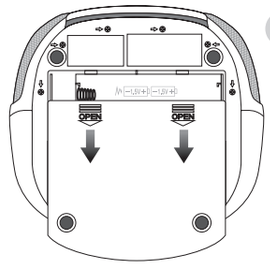


家庭用コンセント(AC100V)

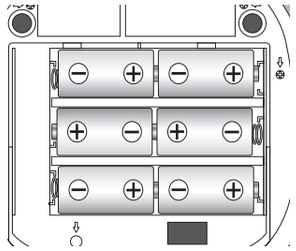
乾電池で使う場合

◆アルカリ乾電池のご使用をお薦めします。
◆電池カバーを外し、乾電池の⊕と⊖を間違えないように、単1形乾電池6本を入れます。
※長時間使用するときや大切な録音をするときは、付属の電源コードを使用してください。

底 面



●本体底面にある電池カバーの OPEN 部を押しながら、矢印の方向にスライドさせて開けます。



●乾電池の向きを図のように正しく入れてください。コイルばねのあるほうが⊖側です。
●入れ終わったら電池カバーを元どおりにしっかり閉めます。

単1形乾電池6本使用(別売)

※付属の電源コードは本製品専用です。本製品をご使用の際には必ず付属の電源コードをお使いください。また、付属の電源コードは絶対に他の製品には使用しないでください。製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。

乾電池を安全にお使いいただくために

液もれ、発熱、破裂等の事故を防ぐために、以下のことをお守りください。

⚠ 警告	・火中への投入、加熱、分解をしない ・ショートさせない
⚠ 注意	・⊕⊖の表示通りに入れる ・指定以外の乾電池を入れない ・古い乾電池と新しい乾電池、マンガンとアルカリなど種類の異なる乾電池を一緒に入れない ・使い切った乾電池はすぐに取り出す ・しばらく使わないときは乾電池を取り外しておく

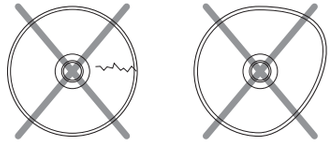
●万一液もれしたら、液をよく拭き取ってください。また、液が皮膚や衣類に付着した場合はすぐに大量の水で洗い流してください。
●万一、もれた液が目に入ったときは、失明の原因となるので、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、ただちに医師に相談してください。
●使用済みの乾電池を廃棄する場合、自治体の条例などで決まりがあるときにはそれに従って廃棄してください。

ご使用になる前に(CDについて)

結露について

寒いところから急に暖かいところに移動させると、レンズに水滴がついたり、くもったりする結露現象が起こります。この状態で使用すると、正しく動作しないことがあります。このようなときはディスクを取り出して数分間放置してください。結露が取り除かれて正常に動作するようになります。

ディスク使用上の注意点



◆再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびやそりのあるディスク、割れたり変形したディスク、テープや接着剤で補修したディスクなどは危険ですから絶対に使わないでください。

◆ディスクに

のマークが入ったものをご使用ください。

◆現在発売されている「コピーコントロールCD」と呼ばれる著作権保護技術付音楽ディスクは、コンパクトディスク(CD)規格に準拠しない特殊ディスクであり、本製品における再生にあたっては、動作や音質の保証は致しかねます。音楽ディスクパッケージの表示をよくお読みください。なお「コピーコントロールCD」の詳細に関しては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

コピーコントロールCDのマーク

◆本機はCD-R／CD-RWの再生に対応していますが、以下の点をご注意ください。

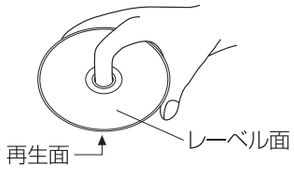
・MP3やWMAなど、圧縮されたフォーマットの音楽ディスクの再生はできません。

・CD-R／CD-RWディスク、レコーダー、書き込みソフトウェアの種類や状態によっては、再生できなかったり、ノイズや音飛びが生じる場合があります。

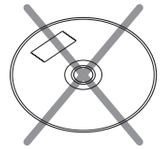
・ファイナライズ処理がなされていないディスクは再生できません。

ディスク取扱上の注意点

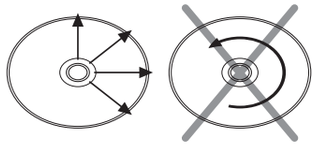
◆再生面に触れないように持ってください。



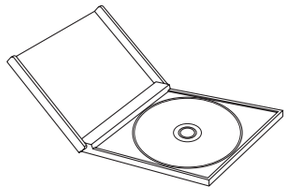
◆再生面はもちろん、レーベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。



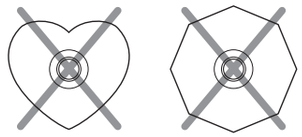
◆ディスクに指紋や汚れがついたときは、柔らかい布などで放射状に軽く拭き取ってください。



◆長い時間使用しないときは、ディスクを本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。



◆ハート型や八角形などの特殊形状のディスクは、使用しないでください。機器の故障の原因となります。

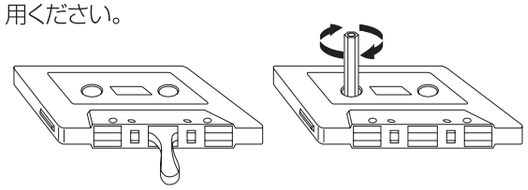


ご使用になる前に(カセットテープについて)

カセットテープの取扱上の注意点

◆テープのたるみは、テープの巻きつきや切断の原因になります。

◆テープがたるんでいないかどうかを確かめ、たるんでいる場合は図のように鉛筆などで必ず直してからご使用ください。



◆カセットテープを入れたままにしたり、再生／録音状態のまま電源を切らないでください。テープが回転部分に密着したままになるので、からみや巻きつきの原因となります。テープは必ず取り出して保管してください。

◆テープ動作中の早送り・巻戻し操作は、テープ巻きつきや故障の原因となることがあります。必ず停止ボタンを押し、動作を停止させてから行ってください。

◆テープの損傷を避けるため、大切なテープやオリジナルテープは必ずダビングし、ダビングしたテープを本機でお使いください。

◆エンドレステープは使用できません。

録音時の注意点

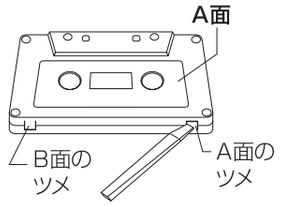
◆ツメを折ってあるテープは録音ボタンの操作ができません。無理に押したりすると故障する場合もありますのでご注意ください。

◆ノーマルテープ(TypeⅠ)をお使いください。ハイポジションテープ(TypeⅡ)やメタルテープ(TypeⅣ)には録音できません。また、ノーマルテープについてもC-60(60分テープ)までのテープを使用してください。C-90以上の長時間テープは通常のカセットテープに比べて非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれるなどのトラブルの原因になりますので、ご使用はお薦めできません。

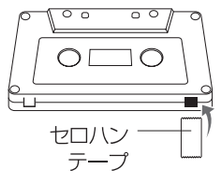
◆カセットテープの両端にあるリーダーテープ部分(透明テープ部分)は録音ができません。録音前にこの部分を送っておきましょう。

大切な録音を消さないために

保存しておきたいテープの場合、カセットのうしろ側にある「ツメ」を折っておくと、間違って大切な録音を消去せずにすみます。

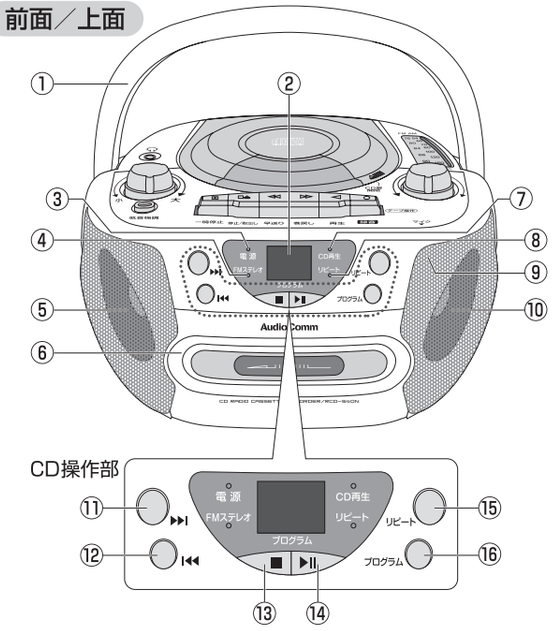


再び録音したい場合は、折ったツメの部分にセロハンテープなどを貼りつけて、穴をふさいでください。



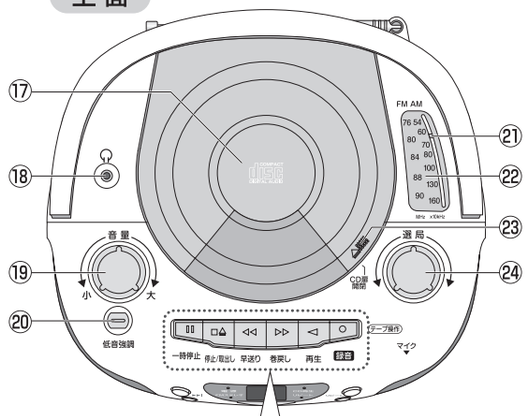
各部の名称

前面／上面



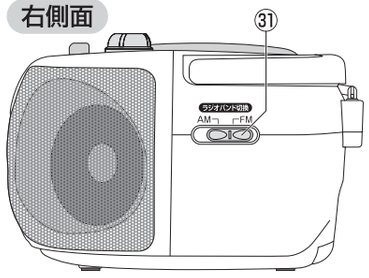
CD操作部

上 面

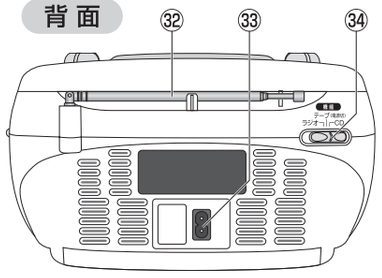


カセットテープ操作部

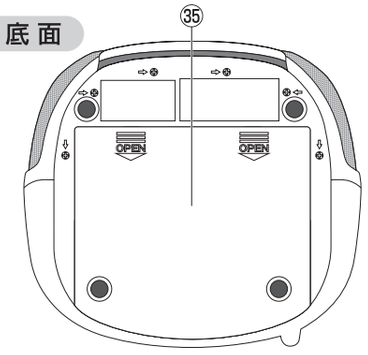
右側面



背 面



底 面



①キャリーハンドル
②ディスプレイ
③電源ランプ
④FMステレオランプ
⑤左スピーカー
⑥カセットドア
⑦CD再生ランプ
⑧リピートランプ
⑨録音マイク（内蔵）
⑩右スピーカー

CD操作
- ⑪スキップボタン（▶▶|）
- ⑫スキップボタン（|◀◀）
- ⑬停止ボタン
- ⑭再生／一時停止ボタン
- ⑮リピートボタン
- ⑯プログラムボタン

⑰CD扉
⑱ヘッドホン端子
⑲音量ツマミ
⑳低音強調ボタン
㉑選局指針
㉒選局目盛り
㉓CD扉開閉部
㉔選局ツマミ

カセットテープ操作
- ㉕一時停止ボタン
- ㉖停止／取出しボタン
- ㉗早送りボタン
- ㉘巻戻しボタン
- ㉙再生ボタン
- ㉚録音ボタン

㉛バンド切換スイッチ
㉜FMロッドアンテナ
㉝AC100V電源ソケット
㉞電源／機能切換スイッチ
㉟電池カバー

低音強調機能について

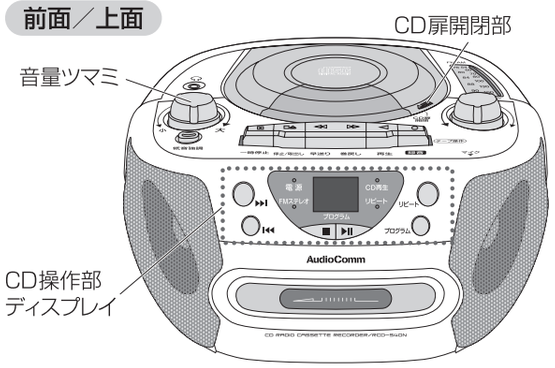
低音強調ボタンを押し込むと、低音が強調された音を楽しめます。

●CD、ラジオ、カセットテープのいずれの機能でも有効です。

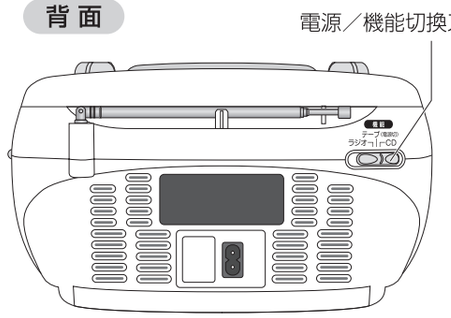
●解除するにはもう一度ボタンを押します。

CDを聴く

前面／上面



背 面



音量を絞ってから電源を入れてください。

❶ 電源／機能切換スイッチをCDに合わせます。

●電源ランプが点灯します。

●ディスプレイに「- -」がしばらく点滅し、ディスクが入っていない場合は、「no」と表示されます。

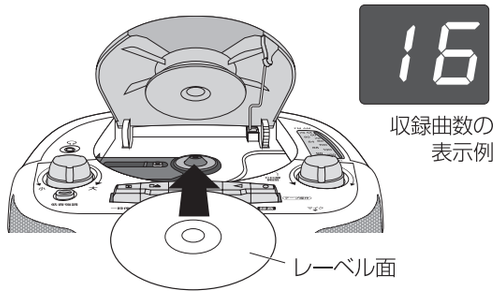
❷ CD扉開閉部を押してCD扉を開けます。レーベル面（印刷されている面）を上にしてディスクを正しくセットし、手でCD扉開閉部を閉めます。

●CD扉を開けるときはキャリーハンドルを倒してください。立てたままでは開閉できません。

●CD扉を開け閉めするときは、CD扉開閉部をカチッと音がするまで押し込んでください。

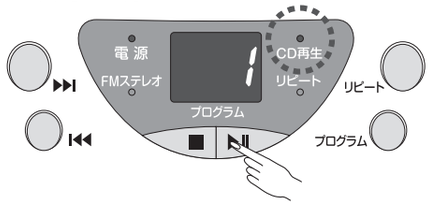
●CD扉を強引に開け閉めしないでください。故障するおそれがあります。

●CD扉を閉めるとディスクが回転し、収録されている曲数がディスプレイに表示されます。



❸ 再生／一時停止ボタンを押します＝再生開始

●再生中は再生ランプが点灯し、ディスプレイに曲番号が表示されます。



❹ 音量ツマミで音量を調節します。

●音量を大きくしすぎないようにご注意ください。周囲の迷惑になるだけでなく、聴力に悪い影響を及ぼすおそれがあります。

❺ 再生を一時停止するときは、再生／一時停止ボタンを押します。

●一時停止中は再生ランプが点滅します。

●もう一度押すと再生を再開します。

❻ 再生を停止するときは停止ボタンを押します。

●ディスプレイは収録曲数表示に戻ります。

次ページに続く

CDを聴く（つづき）

7 終了するときは電源／機能切換スイッチをテープ（電源切）に合わせます。

●電源ランプが消灯します。

使い終わった後は、必ず本機からディスクを取り出してケースに保管してください。また、ほこりや汚れから内部を保護するため、ディスクを取り出した後はCD扉を必ず閉めてください。

スキップボタン（⏭／⏮）について

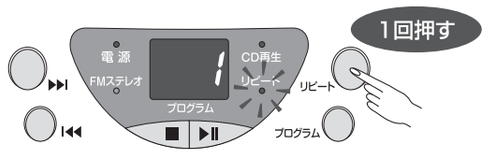
停止中、再生中、再生中の長押しといったそれぞれの状態に応じて、機能が異なります。

ボタン	停止中に押す	再生中に押す	再生中に長押しする
⏭	次の曲を選択	次の曲に移動して再生	聴いている曲が早送りされます。指を離した時点から再生を再開します。
⏮	一つ前の曲を選択	曲の頭に戻って再生。2回続けて押すと、ひとつ前の曲に戻って再生します。以降、押すごとに順次前の曲に戻って再生します。	聴いている曲が早戻しされます。指を離した時点から再生を再開します。

※再生中に長押しすると、断片的に再生音が流れますので、お好みのところで指を離してください。

同じ曲を繰り返し聴くには

1曲リピート再生



CD再生中にリピートボタンを1回押すと、聴いている曲を繰り返し再生します。

●停止中または一時停止中にリピートボタンを1回押した場合は、再生／一時停止ボタンを押すことで1曲リピート再生が始まります。

●1曲リピート再生時はリピートランプが**点滅**します。

全曲リピート再生

CD再生中にリピートボタンを2回押すと、CD内の全曲を繰り返し再生します。

●停止中または一時停止中にリピートボタンを2回押した場合は、再生／一時停止ボタンを押すことで全曲リピート再生が始まります。

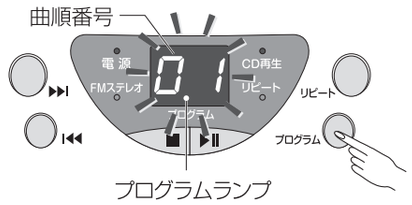
●全曲リピート再生時はリピートランプが**点灯**します。

●リピート再生を解除するには、リピートランプが消えるまで、リピートボタンを1回、または2回押してください。
●停止ボタンを2回続けて押したときや、停止後にCD扉を開けたとき、他の機能に移行したときも解除されます。

プログラム再生（CDの曲順を並びかえて聴く）　最大20曲まで登録できます。

1 CD停止中にプログラムボタンを押します。

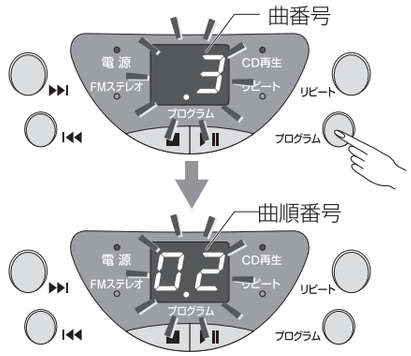
●曲順番号とプログラムランプが点滅します。



2 スキップボタン（⏭／⏮）を数回押して1曲目に登録したい曲番号を選び、プログラムボタンを押します。

●スキップボタン（⏭／⏮）操作中は曲番号が表示されます。

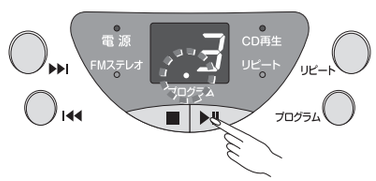
●プログラムボタンを押すと、ディスプレイに「02」（曲順番号）が点滅し、2番目に登録したい曲を選べる状態になります。



3 ステップ2の操作を繰り返して、聴きたい曲を順に登録します。

4 再生／一時停止ボタンを押します＝プログラム再生開始

●プログラム再生中は、プログラムランプが点灯します。



●何も操作しない時間が約30秒続くと、プログラム登録がキャンセルされます。必要に応じて最初からやり直してください。

●プログラム再生中に停止ボタンを1回押すと、プログラムを保持したまま再生を停止します（プログラムランプは点灯したまま、総曲数表示になります）。
- この状態で再生／一時停止ボタンを押すと、プログラムの1曲目から再生を始めます。
- プログラムの設定自体を解除するには、停止ボタンを2回続けて押してください（プログラムランプが消灯します）。
- CD扉を開けたときや、他の機能に移行した場合も解除されます。

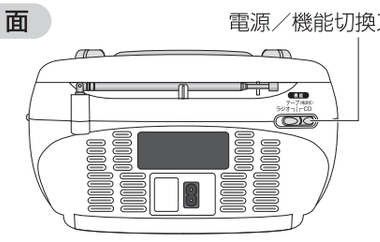
●全曲リピート再生とプログラム再生を併用すると、登録した曲順で繰り返し聴くことができます。

●プログラムを修正するときは、変更したい曲順番号が表示されるまでプログラムボタンを数回押します。その後、スキップボタン（⏭／⏮）を押して曲番号を変更し、プログラムボタンを押してください。

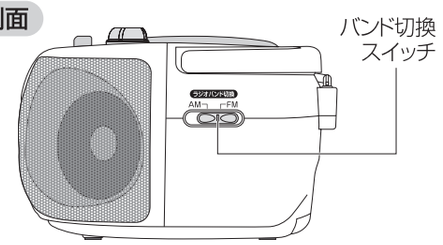
ラジオを聴く

前面／上面

背 面



右側面



音量を絞ってから電源を入れてください。

❶ 電源／機能切換スイッチをラジオに合わせます。

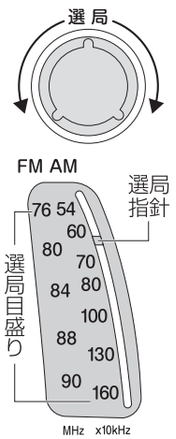
●電源ランプが点灯します。

❷ バンド切換スイッチで、聴きたいバンドを選びます。

❸ 選局ツマミを回して、聴きたい放送局を受信します。

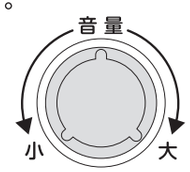
●選局目盛りを参考にしながら、最も良く聴こえるように調節してください。

●バンド切換スイッチで「FM」を選び、良好な状態でFMステレオ放送を受信すると、FMステレオランプが点灯します。



❹ 音量ツマミで音量を調節します。

●音量を大きくしすぎないようにご注意ください。周囲の迷惑になるだけでなく、聴力に悪い影響を及ぼすおそれがあります。



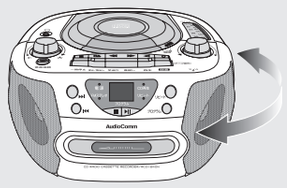
❺ 終了するときは電源／機能切換スイッチをテープ(電源切)に合わせます。

●電源ランプが消灯します。

受信状態をよくするには

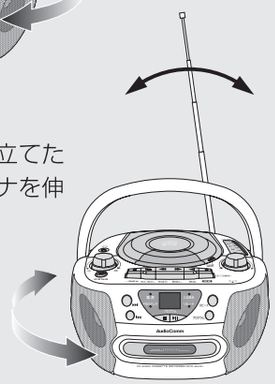
●AM放送の受信

本機にアンテナが内蔵されています。本機を動かして最も受信状態の良い向きを見つけてください。室内の場合、窓際のほうが良く受信できます。



●FM放送の受信

キャリーハンドルを立てた後、FMロッドアンテナを伸ばし、長さ、方向、角度を変えて受信状態が最も良くなるように調節してください。

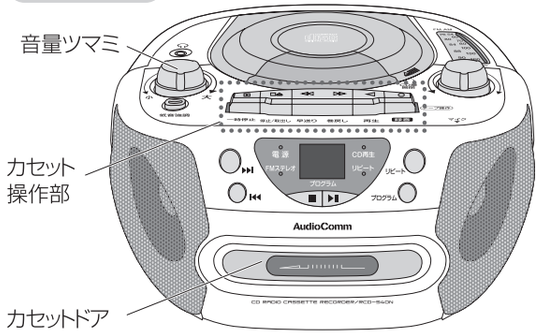


●テレビや蛍光灯の近くでAM放送を受信すると、雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは本機を離してご使用ください。

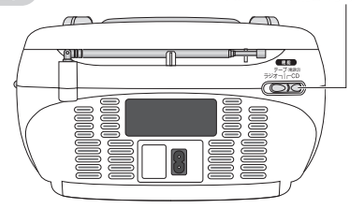
●持ち運ぶときは、目をついたり危険ですので、FMロッドアンテナを縮めた状態で持ち運んでください。

カセットテープを聴く

前面／上面



背 面



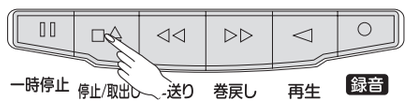
P.6を参照し、本機での再生に対応したカセットテープをお使いください。

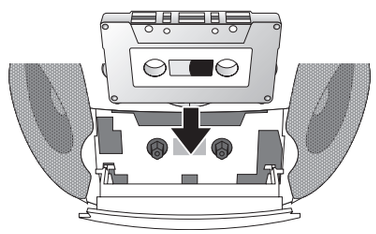
音量を絞ってから電源を入れてください。

❶ 電源／機能切換スイッチがテープ(電源切)にあることを確認します。

❷ 停止／取出しボタンを押してカセットドアを開け、カセットテープをセットします。セットしたらカセットドアを手で閉めます。

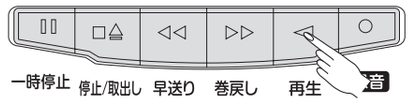
●カセットドアを強引に開け閉めしないでください。故障するおそれがあります。





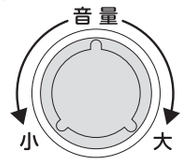
テープが見えるほうを上にし、再生面を手前にして入れます。

❸ 再生ボタンを押すと、再生が始まります。



❹ 音量ツマミで音量を調節します。

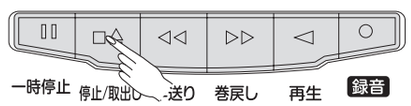
●音量を大きくしすぎないようにご注意ください。周囲の迷惑になるだけでなく、聴力に悪い影響を及ぼすおそれがあります。



❺ 再生を一時停止するときは、一時停止ボタンを押します。

●もう一度押すと再生を再開します。

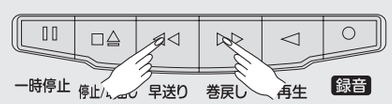
❻ 再生を停止するときは停止／取出しボタンを押します。



●早送り・巻戻しについて

早送りボタン…テープを早送りします。

巻戻しボタン…テープを巻戻します。



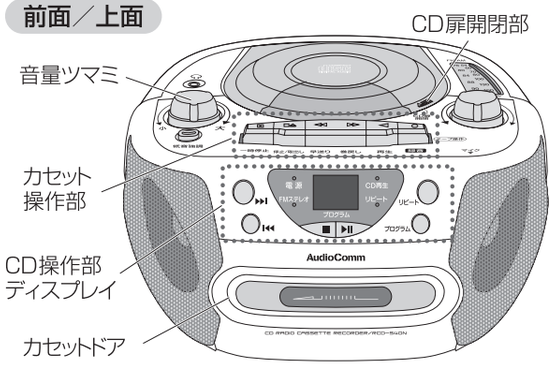
※テープ動作中の早送り・巻戻し操作は、テープの巻きつきや故障の原因となります。必ず停止ボタンを押してから行ってください。

●再生・録音オートストップ機構 再生／録音時にテープが最後まで行くと、自動的に操作ボタンが上がり動作終了します。ただし、早送り／巻戻しでは自動的に動作終了しません。故障の原因となることがありますので、早送り／巻戻し時は必ず停止ボタンで動作を終了させてください。

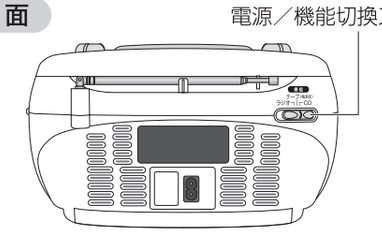
●使い終わった後は、必ず本機からカセットテープを取り出してケースに保管してください。また、ほこりや汚れから内部を保護するため、カセットテープを取り出した後はカセットドアを必ず閉めてください。

CDからカセットテープに録音する

前面／上面



背 面



P.6を参照し、本機での録音に対応したカセットテープをお使いください。

音量を絞ってから電源を入れてください。

❶ 電源／機能切換スイッチをCDに合わせます。

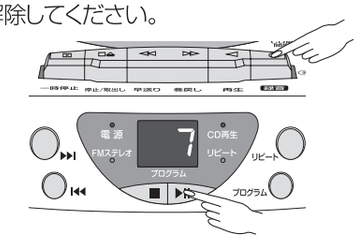
機 能
テープ（電源切）
ラジオ ┐| ┌CD

●電源ランプが点灯します。
●ディスプレイにしばらく「- -」が点滅し、ディスクが入っていない場合は、「no」と表示されます。

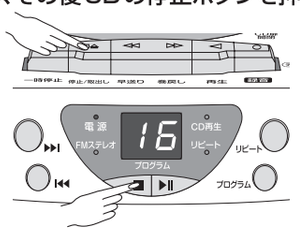
❷ CDとカセットテープをそれぞれセットします。
●CDのセット方法はP.8を、カセットテープはP.6、P.12を参照しながら、録音する面を手前にしてセットしてください。
●CDの曲をすべて録音する場合は、ステップ４に進んでください。

❸ 録音したい曲をスキップボタン（⏭／⏮）で選び、CDの再生／一時停止ボタンを２回押します。
●CDの再生を一時停止状態にします。

❹ カセットの録音ボタンを押し、すぐにCDの再生／一時停止ボタンを押します＝録音開始
●録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に下がり録音が始まりますので、すぐにCDの一時停止状態を解除してください。



❺ 録音を終えるときはカセットの停止／取出しボタンを押し、その後CDの停止ボタンを押します。



❻ 終了するときは電源／機能切換スイッチをテープ（電源切）に合わせます。

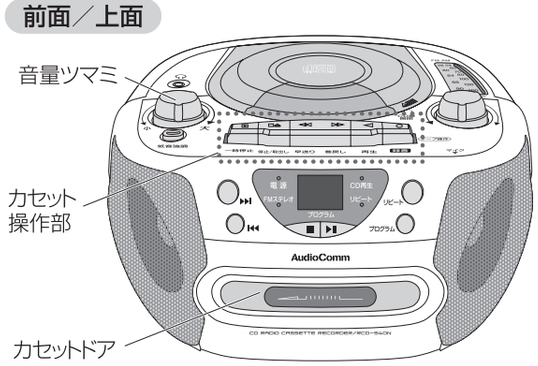
機 能
テープ（電源切）
ラジオ ┐| ┌CD

●電源ランプが消灯します。

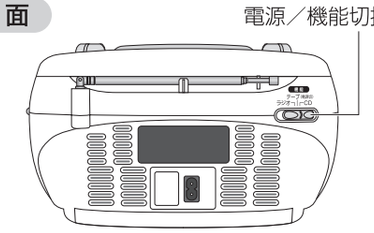
●再生中の音を聞きながら録音できます。
●録音中にテープが終わると、録音ボタンと再生ボタンがはね上がり、カセットテープの走行が停止します（CDの再生は続きます）。
●テープが入ってない状態では、録音ボタンは押せません。
●録音中は電源／機能切換スイッチを「テープ（電源切）」に動かして電源を切らないでください。故障の原因となります。
●録音レベルは自動で一定に調節されますので、音量ツマミを操作しても録音には影響がありません。
●大切な録音をするときは、途中での電池切れを防ぐため、家庭用電源での録音をお勧めします。
●使い終わった後は、必ず本機からCDとカセットテープを取り出してそれぞれのケースに保管してください。CD扉とカセットドアも必ず閉めてください。

ラジオ放送をカセットテープに録音する

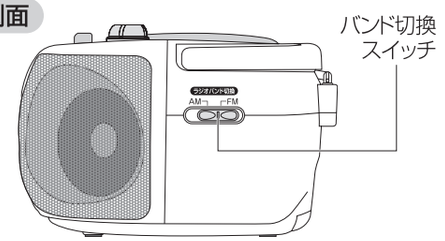
前面／上面



背 面



右側面



P.6を参照し、本機での録音に対応したカセットテープをお使いください。

音量を絞ってから電源を入れてください。

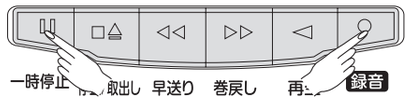
❶ 電源／機能切換スイッチをラジオに合わせた後、録音したい放送局を受信します。

機 能
テープ（電源切）
ラジオ ┐| ┌CD

●P.11を参照して操作してください。

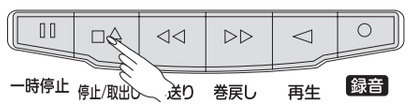
❷ カセットテープをセットします。
●P.6、P.12を参照しながら、録音する面を手前にしてセットしてください。

❸ カセットの一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押します＝録音待機
●録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に下がります。



❹ 録音を開始したいところで一時停止ボタンを押し、一時停止を解除します＝録音開始

❺ 録音を終えるときは停止／取出しボタンを押します。



❻ 終了するときは電源／機能切換スイッチをテープ（電源切）に合わせます。

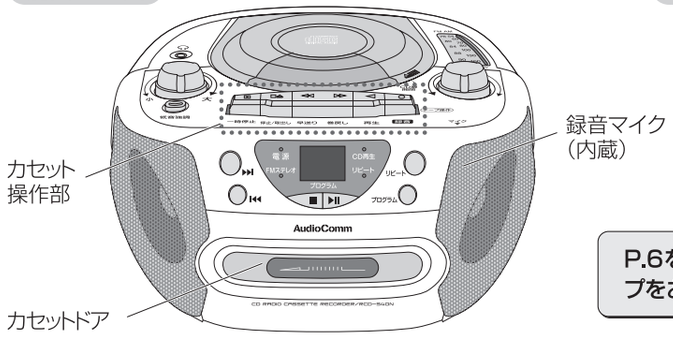
機 能
テープ（電源切）
ラジオ ┐| ┌CD

●電源ランプが消灯します。

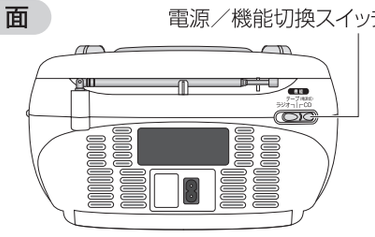
●ラジオを聴きながら録音できます。
●録音中にテープが終わると、録音ボタンと再生ボタンがはね上がり、カセットテープの走行が停止します。
●テープが入ってない状態では、録音ボタンは押せません。
●録音中は電源／機能切換スイッチを「テープ（電源切）」に動かして電源を切らないでください。故障の原因となります。
●録音レベルは自動で一定に調節されますので、音量ツマミを操作しても録音には影響がありません。
●大切な録音をするときは、途中での電池切れを防ぐため、家庭用電源での録音をお勧めします。
●使い終わった後は、必ず本機からカセットテープを取り出してケースに保管してください。カセットドアも必ず閉めてください。

周囲の音をカセットテープに録音する

前面／上面



背 面



P.6を参照し、本機での録音に対応したカセットテープをお使いください。

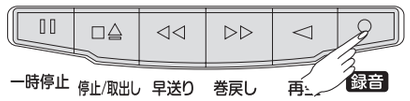
❶ 電源／機能切換スイッチがテープ(電源切)にあることを確認します。

❷ カセットテープをセットします。

●P.6、P.12を参照しながら、録音する面を手前にしてセットしてください。

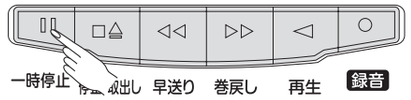
❸ 本機の録音マイクを音源に向け、録音ボタンを押します=録音開始

●録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に下がります。



❹ 録音を一時停止するときは一時停止ボタンを押します。

●もう一度押すと録音を再開します。

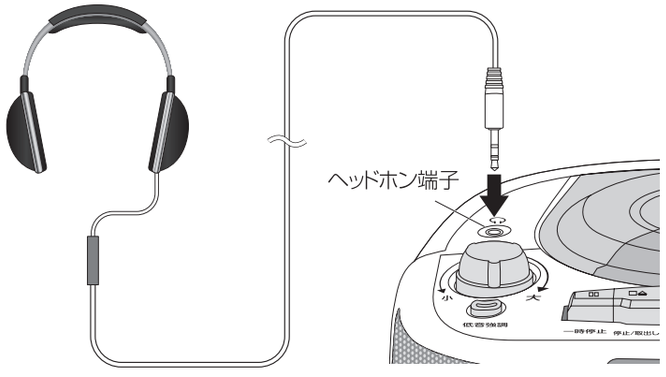


❺ 録音を終えるときは停止／取出しボタンを押します。

●録音レベルは自動で一定に調節されますので、音量ツマミを操作しても録音には影響がありません。
●使い終わった後は、必ず本機からカセットテープを取り出してケースに保管してください。カセットドアも必ず閉めてください。

ヘッドホンの使い方

●別売のステレオヘッドホン(φ3.5mmステレオミニプラグ)をヘッドホン端子につなぎます。ヘッドホンをつなぐと、スピーカーからの音は聴こえなくなります。
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
●家庭用電源でご使用時、ヘッドホンでお聴きになると、ハム音(ラジオなどの音声に混じって聴こえる「ブーン」という音)が耳障りになることがあります。その場合は、乾電池にてご使用になられるようお願いいたします。



お手入れのしかた

※お手入れの前には、あらかじめ電源コードや乾電池を外し、誤って電源が入らないようにしてから行なってください。

ヘッド部の清掃について

ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーは長い間使っていると磁粉やゴミ、ほこりなどが付着して汚れてきます。汚れがひどくなると、

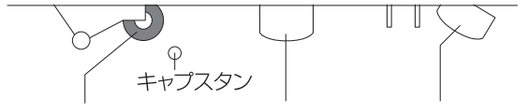
●音質が悪い
●音が小さい
●録音できない
●前の音が消えないで残る　などの症状が出ます。

定期的にヘッド部を清掃してください。

ヘッド部の清掃方法

カセットドアを開け、別売のクリーニングキッドでヘッドやピンチローラー、キャプスタンなどの汚れを拭き取ります。なお、内部についたクリーナー液が十分に乾いてからテープをセットしてください。

カセット部内部(上面)



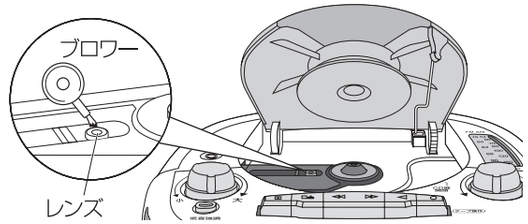
ヘッドの消磁を行うには市販の消磁器をお使いください。カセットタイプの消磁器をお使いになるときは、必ず再生ボタンのみを押し込んで消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の説明書をご覧ください。

※本機の消去ヘッドはマグネットタイプになっていますので消磁しないでください。

CDプレーヤーのレンズの清掃

レンズの汚れは、音飛びなど正常な再生ができなくなる原因になります。CD扉を開け、下図のようにレンズをクリーニングしてください。

●市販のクリーニングキットのブロワーを使って、ほこりやゴミなどをはき出してください。
●万一指紋などがついている場合は、市販のレンズクリーナーをお使いください。



キャビネットの清掃

●キャビネットや操作ボタンなどが汚れたら、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい場合は、水で布を湿らすか、中性洗剤を少し布につけて拭き、その後に乾拭きをしてください。
●電源コードのプラグにほこりがたまると、発火する危険があります。プラグをコンセントから抜いて時々清掃してください。
●シンナーやベンジン、アルコールなどは使わないでください。変質したり、塗料がはげることがあります。

シンナー、ベンジン、アルコールは使用しないでください。

故障かなと思ったら

	症　状	チェック項目
共通部	電源が入らない	○電源コードが外れて（ゆるんで）いませんか。 ○乾電池は正しく入っていますか。 ○乾電池が消耗していませんか。
	音が出ない	○音量が最小になっていませんか。 ○ヘッドホン端子にヘッドホンが差し込まれていませんか。
カセットデッキ部	カセットが入らない	○逆向きに入れようとしていませんか。
	テープが走行しない	○一時停止ボタンを押していませんか。
	テープが機械に巻きつく	○ピンチローラーやキャプスタンが汚れていませんか。 ○テープがたるんでいませんか。 ○カセットドアがきちんと閉まっていますか。
	テープ走行が不安定	○テープがたるんでいませんか。 ○乾電池が消耗していませんか。
	雑音がひどい、音が震える 音飛びがする	○乾電池が消耗していませんか。 ○ヘッド部が汚れていませんか。 ○テープがたるんでいませんか。
	録音ボタンが押せない	○カセットが入っていますか。 ○カセットドアがきちんと閉まっていますか。 ○カセットの誤消去防止用ツメが折れていませんか。
	録音できない	○ヘッド部が汚れていませんか。
	前の録音が完全に消去されない	○消去ヘッドが汚れていませんか。
	テープの音が出ない	○電源／機能切換スイッチが別の機能になっていませんか。
CD部	CDの再生が始まらない	○CDが裏返しに入っていませんか。 ○CDがひどく汚れていませんか。 ○規格外のディスクが入っていませんか。 ○レンズがひどく汚れていませんか。 ○CD扉がしっかりと閉まっていますか。 ○電源／機能切換スイッチが別の機能になっていませんか。
	CDの音が出ない	○一時停止状態になっていませんか。
	CDの音が飛ぶ	○結露状態になっていませんか。 ○レンズがひどく汚れていませんか。 ○強い振動を与えていませんか。 ○CDに大きなキズやひどい汚れはありませんか。
ラジオ部	ラジオに雑音が入る	○近くで携帯電話を使用していませんか。 ○テレビや蛍光灯の近くでAM放送を受信すると雑音が入ることがあります。また、テレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは本機をテレビから離してください。

主な仕様

共通部	電　　源	AC100V　50 ／ 60Hz　　DC 9V（単1形乾電池×6個　別売）
	消費電力	13W
	実用最大出力	1W×2
	出力端子	ヘッドホン端子…φ3.5mmステレオミニジャック
	スピーカー	口径76mm×2（インピーダンス8Ω）
	外形寸法	幅253×高さ135×奥行221mm（突起物含まず）
	質　　量	約2.3kg（乾電池含まず）
	乾電池での連続使用時間の目安	ラジオ受信時　　約50時間　　テープ再生時　　約30時間
		CD再生時　　約25時間
	付属品	電源コード、取扱説明書（保証書）

ラジオ部	ラジオ受信周波数	FM：76～90 MHz　　AM：530～1605 kHz
	アンテナ	FM：ロッドアンテナ　　AM：内蔵フェライトバーアンテナ

CD部	チャンネル数	2チャンネルステレオ
	サンプリング周波数	44.1kHz
	再生可能ディスク	CD、CD-R/RW
	S/N比	40dB

カセット部	トラック方式	4トラック2チャンネルステレオ
	録音方式	交流バイアス
	消去方式	マグネット消去
	ワウフラッター	0.35%　WRMS
	S/N比	35dB

※乾電池での連続使用時間の目安は、アルカリ乾電池使用（音量：中程度）の場合の目安です。乾電池の種類や使用状況によって異なります。
※本製品の仕様及び外観は、改良のため予告なく変更することがあります。また本取扱説明書で使用する図版は、実際の機種と一部外観が異なっている場合があります。

保証書とアフターサービスについて

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容及び「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

●調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

●保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。